

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		佐賀市立中川副小学校					
1 前年度 評価結果の概要		・学年によって学力差があるので、授業中一人一台端末を積極的に利用し、児童が「主体的・対話的」に取り組める授業改善を行う必要がある。 ・博愛の里ならではの交流活動やボランティアガイド、VS活動（ボランティアサービス）を通して、博愛の精神を学ぶことができた。 ・学校は楽しいと感じる児童の割合が高くなったが、その反面、勉強はあまり楽しくないと感じる児童がいることから、何が原因かを究明し、学習内容を理解させることで進んで勉強に向かう児童の割合を増やす必要がある。 ・働き方改革については、全職員が時間を意識して働くことができた。研修会や情報交換会などを引き続き行い、職員一人一人の意識をさらに高めていきたい。					
2 学校教育目標		気づき、考え、実行する子どもの育成 ～博愛の里 伸びゆくわれら 中小っ子～					
3 本年度の重点目標		一人一人が自分の力を発揮して、輝くことができる学校づくり ①学力向上 ②子どもの活躍の場の設定 ③地域連携					
4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価			
(1)共通評価項目							
		重点取組				最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・他者と協働しながら主体的に学び続ける児童を育成するための授業実践	○「めざす児童像」(話す・聞く)の到達度80%以上。 ○家庭学習ががんばろう週間で各学年の目標時間を達成した児童が75%以上。	・「めざす児童像」(話す・聞く)を用いた評価基準を設定し、指導と評価の一体化を図る。また、全職員による研究授業等を通して、授業力の向上を図る。 ・学期に1回家庭学習ががんばろう週間に取り組む。取り組みについて、プリントやメールで周知する。	B	・5月に作成した「めざす児童像」をもとに、引き続き指導と評価の一体化を図るようにした。また、校内研(学活)を中心に理論研究や研究授業を行った。3学期に行ったアンケートでは「話す」の達成率72%、「聞く」の達成率74%であった。1学期末に比べると約25%程度伸びている。 ・2学期の家庭学習ががんばろう週間では、3・6年生の約85%が各学年の目標時間を達成することができていた。1・2・4・5年生の達成率は50%であった。しかし、前年度の達成率と比べると、目標時間が長くなっているにも関わらず、4・5年生では約20%上昇していた。	B	・10人程度のクラスで、一人でも理解できていなければ、表情からも把握でき、全員の学力向上に努力されている。 ・持ち帰りの勉強は、プリントによる宿題の方がよいように思われるのだが。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートを実施し、(生命尊重、親切・思いやり、規律の尊重、善悪の判断等)肯定的な回答90%以上にする。	・6月のフリー参観で全学年道徳の授業を公開する。 ・学校だよりや学級通信等で道徳の授業内容を保護者に発信する(学期に1回以上)。	B	・2学期中に1回以上、学校だよりや学級通信で道徳の授業内容を保護者に発信することができた。 ・12月に児童アンケートを実施し、「縦割り花壇のお世話を忘れずにしているか」という生命尊重に関する項目では69%、「友達を大切にし、思いやりをもって仲良くすることができているか」という思いやりに関する項目では91%が肯定的な回答をした。	A	・道徳の時間の充実は、すでに行われていると思うが、昔は何かにつけて上級生が下級生を育てていたように思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用と学期ごとの教育相談週間を通しての実態把握ができていていると回答した教員85%以上 ○生徒支援委員会を月に1回実施する。	・月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用と学期ごとの教育相談週間を通しての実態把握。 ・毎月の生徒支援委員会での実態把握。	A	・月初めのアンケートや教育相談週間を活用し、いじめや不登校などの未然防止に努めていると100%の職員が回答した。 ・毎月生徒支援委員会を実施し、学級や児童の実態の情報を共有し、対応について共通理解を図った。	A	・授業中以外の時間でも児童一人一人と向き合って理解されている様子がうかがえる。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生や友だちはあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答85%以上	・QUアンケートや児童アンケートを実施し、自己肯定感や学級所属感を高められているのかの実態把握。 ・キャリアパスポートを活用し、将来の夢や目標の意識化をする。	A	・2学期に1回目のQUアンケートを実施し、客観的に学級の実態を把握することができ、対応策を考えることができた。2回目は2月に実施予定で、姿容を見る。児童アンケートでは、肯定的な回答が93%(1名減)であった。 ・キャリアパスポートやお仕事発見ブックを活用し、将来の夢や目標の意識化を図った。児童アンケートでは、肯定的な回答が95%と向上した。	A	・キャリアパスポートを活用することで低学年時から高学年時にかけての夢や希望の変化が見え、心の成長が確認できることはとても素晴らしい。
	○◎「博愛の里子どもづくり」の推進	○◎博愛の里である川副町に生まれ育ったことを誇りに思う」と肯定的な回答を90%以上。	・総合の学習や佐野祭に参加し、郷土愛を高める。 ・美化活動やJRC活動に、博愛の精神をもって取り組めるよう毎学期VS週間を設ける。	B	・毎学期のVS週間や学年持ち回りのボランティアに加え、佐野祭やふるさと交流ボランティアや赤十字交流を通して、博愛の精神は高まっている。児童アンケート「博愛の里である川副町に生まれ育ったことを誇りに思う」の項目で、前回よりも肯定的な回答は89.2%に増えた。しかし、目標の90%には0.8%届かなかったため、評価をBとしている。	B	・「博愛の里子どもづくり」の推進では、実際に活動が行われているので、その面でも評価できるのではないか。
●健康・体づくり	㊟「望ましい生活習慣の形成」	○児童アンケート「毎日、早寝・早起きをし、朝ごはんを食べていますか。」の項目で「している、だいたいしている」75%以上 ○「家庭学習頑張ろう週間」で各個人で設定した目標就寝時刻を7日間達成できた児童70%以上	・保健・家庭科・特別活動の時間等を活用し、十分な睡眠・早起きが生活リズムをつくり、健康によいことを理解させる。 ・就寝時間や睡眠時間を意識して生活できるような保健便りを配布したり掲示物を作成したるする。(健康タイム)	B	・ショートの保健指導や保健便り、掲示物などを活用し、児童の健康的な生活習慣を送ろうとする意識を高めることができた。 ・児童アンケート「毎日、早寝・早起きをし、朝ごはんを食べていますか。」で肯定的な回答81.1% ・「家庭学習頑張ろう週間」で個人で設定した目標就寝時刻7日間達成できた児童は59.7%と目標よりも下回ったが1学期よりも就寝時間や健康的な生活習慣を意識できている児童が増えた。	B	・通学時に遅くなったり、雨が降ったりで送ってもらう子どもたち。学校内では、元気でよい子たちに見える。これが今どきの子育てなのだろうか。 ・「健康な体に健康な心が宿る」スローガンにしてもよいのでは。
	㊥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○児童アンケート「好き嫌いせずにご飯を食べている」肯定的な回答85%以上	・栄養教諭と連携し全学級で食育に関した授業を1回以上行う。(学活、保健、家庭科など)	A	・児童アンケート「好き・きらいせず、ごはんを食べていますか」で肯定的な回答は83.8% ・保護者アンケート「学校は、給食便りや授業等で、栄養バランスや食の大切さを認識させる食育を行っている」肯定的な回答は、98.5% ・1月末時点で、4学級において食に関する授業を行った。残りの2学級は2月に行う予定	A	・掲示物やお便りなどによる意識づくりがなされ、学校の努力の跡がうかがえる。
	㊦「安全に関する資質・能力の育成」	○児童アンケート「あなたは安全に気をつけて生活していますか。」90%以上 ○児童の交通事故を0(ゼロ)にする。	・交通安全教室を実施し、交通ルールを守ろうとする態度を育てる。 ・全校朝会で児童による安全をテーマにした注意喚起を毎回実施する。	A	・児童アンケート「安全に気をつけて生活していますか」で肯定的な回答は96.5% ・1月までの児童の交通事故は0(ゼロ) ・全校集会などで健康委員会が3回、時期に応じた安全な生活のための劇を行い、注意喚起をすることができた。 ・火災避難訓練、不審者避難訓練を行い、安全な非難の仕方や防災についての意識を高めることができた。地震津波避難訓練は2月に実施予定。	A	・これまでは時間外労働時間の短縮だけが大きく取り上げられていたが、今年度はようやく業務効率化の推進が図られている。 ・成果が出ているのは素晴らしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・担当校務分掌で3つの部会を作り、代表職員を中心に協力しながら効率よく業務を進める体制をつくる。 ・職員一人一人が出動時にその日の退勤時刻を設定し、職員室の出動簿横のボードにネームプレートを貼ることで、目標達成できたか視覚的に把握できるようにする。。	A	・職員会議の前に必ず専門部会(3部会)で提案内容や役割を確認するようにしたことで、職員一人一人の負担を軽減することができた。【学校評価：チームの一員として、教職員間で協力して校務分掌等に取り組んでいる肯定的な回答【91.7%】 ・作業の期限や提出物の締め切りを明確にした長期のスケジュールを示すことで、早く取り掛かることができ、個人のペースで仕事を進めることができるようになった。【学校評価：上限時間(月45時間未満)を超えないように、計画的に業務に取り組んでいる肯定的な回答100%】	A	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○外部講師を招聘するなどし、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方等について学ぶ研修会を、年に3回実施する。 ○職員アンケートで「特別支援教育研修会や支援会議等において、児童への指導・支援のあり方について共通理解し、日々の実践に生かしている。」肯定的な回答80%以上	・外部講師を招聘するなどし、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方等について学ぶ研修会を行う。 ・支援学級担当が、全職員に自立活動の授業を公開して特別支援教育についての理解を深める。	A	・外部講師を招聘し、支援を要する児童の実態や実際の支援に生かすための検査等について学ぶ機会を持ち、理解を深めることにつながった。 ・3学級合同の形で自立活動の授業を公開した。実際の活動の様子を参観してもらうことで児童の理解や支援についての考える機会をもつことができた。【学校評価：特別支援教育研修会や支援会議等において、児童への指導・支援のあり方について共通理解し、日々の実践に生かしていると肯定的な回答100%】	A	・一人一人の個性を十分に尊重した教育をされていると思う。 ・特別支援の3学級合同による自立活動の授業を公開することにより、児童対応への共有化が模索されていて、その努力は評価できる。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
		重点取組				最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言
○地域連携	○地域交流ボランティアやPTAとの協働活動を通して、地域に開かれた学校を目指す。	○職員アンケートで「地域の行事や人材を積極的に取り入れた教育活動を実践することができている。」肯定的な回答80%以上。 ○保護者アンケートで「学校は、JRC(日本赤十字)や地域との連携活動に取り組んでいる。」肯定的な回答75%以上。	・佐野常民と三重津海軍所跡歴史館での連携事業への積極的参加。 ・読み語りや家庭科での地域ボランティアの活用。 ・PTAとの協働による、独居老人との交流。 ・児童の地域活動への積極的参加の呼びかけ。	A	・学年によっては、地域の人との交流や現地に足を運ぶ活動が増え児童の感想からも充実した学習となっている。【学校評価：地域の行事や人材を積極的に取り入れた教育活動を実践することができていると肯定的な回答83.3%】 ・地域との交流活動に達成感を持つよう、コーディネーターによる通信を作成し、学校ホームページにも掲載するなどして発信することができた。【学校評価：学校は地域との連携活動に取り組んでいると肯定的な回答100%】	A	・小学校と公民館との距離的なハンデをものともせず、児童と地域住民の連携により、充実した活動がなされていると賞賛できる。 ・学校のイベントは、よく考えて行われている。昔あそびに参加させてもらったが、子どもたちから元気をもらった。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育							
5 総合評価・次年度への展望		・本校の大きな課題である学力向上については、なかなか結果や手ごたえを感じるまでには至っていない。児童が「主体的・対話的」に学習に取り組める授業づくりを進めていくために、全校で共通した取組を徹底する必要がある。(語彙力・授業のふり返り・読書習慣など) ・委員会活動や他校児童、子ども園児との交流活動など、どの学年も人前で表現する場を設定することができた。今後は、教師主導の活動から、児童がやりたいことややるべきことを考えて計画・実践できるような主体的な活動を仕組んでいく必要がある。 ・来年度のコミュニティ・スクールでの土台作りとなる1年であった。コーディネーターを中心に、どの学年も地域の方との交流や施設・店舗見学ができ、学習の幅が広がっていた。さらに地域との連携を図るため、学校に足を運ぶ人たちを増やすためにどのようなことができるかを考えていく。					